

事務事業評価表 平成25年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 青少年健全育成の推進
 基本事業 青少年健全育成活動の充実

事業名 **発明教室開設事業**

[0465]

部名	教育部	事業開始年度	平成5年度	実施計画事業認定	非対象
課名	生涯学習課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>少年少女発明クラブ</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>発明教室に参加することにより、科学技術への関心を高め、想像力を養い、集団活動や体験学習の経験を通して、創造性豊かな子どもの育成を図る。</p>
	<p>手段</p> <p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>小中学校、広報により参加者を募集し、専任の指導員のもと道具の使い方からはじめ自らの発想を具体化し、工夫をして作品を創り上げる。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度当初
対象指標1	対象クラブ数	団体	1	1	1	1
対象指標2						
活動指標1	補助金額	千円	581	581	581	581
活動指標2	開催回数	回	51	29	20	38
成果指標1	作品展等応募、出品数(市内、全道、全国)	件	47	28	58	50
成果指標2	延べ活動人数	人	717	660	512	600
単位コスト指標						
事業費計(A)		千円	581	581	581	581
正職員人件費(B)		千円	1,209	1,204	1,202	1,208
総事業費(A)+ (B)		千円	1,790	1,785	1,783	1,789

費用内訳	
24年度	負担金 補助及び交付金 581千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	中央公民館の夏休み冬休みの事業としてそれぞれ1週間程度の事業として行われていたが、青少年の科学技術離れが言われるようになり平成5年より小中学生を対象とした通年の事業として青少年課が所管することとなり平成13年には江別小学校の余裕教室利用対策としての位置付けから、江別小学校内に専用の工作室を持ち、募集人員も大きく増やすに至った。平成17年度より補助金による自主活動促進を図る。
--------	--	-------------	--

24年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

児童生徒の創造力豊かな人間形成を図るとともに余裕教室を活用した学校完全週5日制に伴う土曜日の健全育成と異年齢交流を図ることを目的とした妥当な事業である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

児童生徒の自由闊達な創造力を尊重し、科学技術に対する夢と情熱を育み、創造、創作の喜びや満足感、達成感を持たせることは健全育成への貢献度は大きい。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

児童数が減少傾向にあるが、発明工夫展への出品を通じて成果を発表し、全道への出展件数、全国入賞などの件数も増えつつある。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

指導者の発掘・確保や事業のPR等を見直し、新たな参加者の数を増やす必要がある。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・
根拠は？

材料については清掃事務所等の協力を得て廃品のリサイクルを行いコストの削減を図っている。